

自己点検評価（工学部共通学群体育・健康科目）

2019年9月13日提出

1. 理念・目的	
1-1. 教育目標	1
2. 教員・教員組織	
2-1. 方針（目標）に沿った教員構成，能力・資質等の明確化	2
3. 教育内容・方法・成果	
3-1. 学習・教育目標とカリキュラムとの整合性（教育体系の構築）	2
3-2. 授業科目と担当教員の整合性	4
3-3. シラバスに基づく授業の実施	4
3-4. 卒業研究の指導状況	6
3-5. 具体的な取組内容と成果（FD/授業改善）	6
3-6. 学生支援	8
3-7. グローバル化の推進	9
3-8. 教育の質保証と IR 体制	9
3-9. 教育・研究力の向上	10

1. 理念・目的

1-1 教育目標

《現状説明》

体育・健康科目では、4学部統一カリキュラムで実施しており、「芝浦体育」として授業目標を設定している。

(科目目標)

心と身体の健康を管理できる能力を養成し、身体機能の維持・増進に加え、モラルの体得をねらいとした本学独自のスポーツ教育（スポーツマンシップ教育）の実践により、社会の一員として誇りと責任を持ち、社会と他者への貢献ができる人材の育成。

(体育実技：身体的コミュニケーションスキル目標)

- ・生活習慣の改善・確立
- ・スポーツマンシップの実践（豊かな人間性教育とコミュニケーション技術の育成）
- ・安全な身体活動（リスク管理できる能力を含む）

《点検・評価》

本学の理念・目的にある、「学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。」。学習・教育目標の「高い倫理観を持った理工学人材」、「関係する人々とのコミュニケーションを図り、チームで仕事ができる」。

工学部ディプロマポリシーの「豊かな人格形成の基本」、「関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事をする事ができる」、「高い倫理観を持った理工学人材」。

以上の内容を具現化するために、行動変容を具体的な目標とした本科目の教育目標は妥当であると評価できる。生活習慣の改善、メンタルヘルス、コミュニケーションに大きな影響を与えるスポーツマンシップの実践は、今まで学生が気づかなかった部分を気づかせ、小さなこと、出来ることを精一杯行う習慣を実践させ、行動変容を促すことで、目標・理念の実現につながると思われる。

《将来に向けた発展方策》

パブリックスクールで実践された、スポーツを通してジェントルマン教育がなされたのと同様に、本学ではスポーツを通して社会人基礎力を向上させる教育に発展させていくミッションがあると考えている。教育目標は、今後客観的に評価できる具体的な内容かつ数値的に評価できる内容へ発展させる必要があると考えている。

《根拠資料》

- ・学修の手引 工学部 2018
- ・2018年度芝浦工業大学体育教員ハンドブック
- ・体育実技・共通健康科目履修の手引き 2018
- ・生活習慣記録用紙
- ・MHP 調査用紙
- ・本学ホームページ>学部・大学院>工学部紹介
(<http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/index.html>)

2. 教員・教員組織

2-1 方針に沿った教員構成，能力・資質等の明確化

《現状説明》

体育・健康科目の専任教員は，教授（57歳男性），准教授（45歳男性，37歳女性）の3名である。

取得学位は，博士2名，修士1名．専門領域は，運動生理学2名とバイオメカニクス1名である。

専門種目は，アメリカンフットボール1名，サッカー1名，バスケットボール1名である。

取得指導資格は，日本サッカー協会47FAインストラクター，AFC Fitness Coaching Certificate Level 1，日本体育協会公認アスレティックトレーナー，柔道整復師免許，JSCGT公認指導者（ゴルフ）．

専任教員の授業以外での指導実績は，日本オリンピック委員会強化スタッフ（トレーナー・フィジカルコーチ）としてオリンピック，ユニバーシアード，アジア大会，ワールドカップに帯同，大学ラグビー日本選手権優勝チームのフィットネスコーチ，栃木県サッカー協会優秀監督賞受賞などがある。

社会における貢献として，第77回国民体育大会強化委員会委員，さいたま市スポーツ振興審議会委員，Jリーグ所属チームの体力測定およびゲーム分析スタッフ。

社会貢献活動として，さいたま市の高齢者を対象に週1回の健康教室を実施している。

非常勤講師は理論・演習科目の4名（実技兼任2名含む），実技科目14名の計16名である。

理論科目担当教員は，元医学部専任教員，他大学の教授職の先生が担当している．各非常勤講師は他大学の専任教員もしくは複数大学で非常勤講師をしている．ゴルフ担当の非常勤講師は，日本プロゴルフ協会のティーチングプロB級の資格を有している。

《点検・評価》

専任教員は男性2名，女性1名専任教員の能力・資質は社会的にも認められた実績と指導力があると判断できる．また，非常勤講師の能力・資質は，長い指導実績と社会的に認められた質保証があると判断できる．

《将来に向けた発展方策》

非常勤講師と専任教員全員で各種目のスキルアップ，スポーツマンシップ教育と生活習慣教育内容の統一化などのため定期的な研修会の開催をする．

《根拠資料》

- ・ 芝浦工業大学ホームページ (<http://kyoinprofile.sic.shibaura-it.ac.jp>)
- ・ 非常勤講師業績報告書2018
- ・ 非常勤講師ハンドブック2018

3. 教育の内容・方法・成果

3-1 学習教育目標とカリキュラムの整合性（教育体系の構築）

《現状説明》

「体育実技（身体的コミュニケーションスキル）」は，14種目 74コマ（前期 33コマ，後期 41コマ）．前期開講種目はテクニカル（T）と後期開講科目はスポーツコミュニケーション（SC）に分かれており，テクニカルは個人技能，スポーツコミュニケーションはチームとしての戦略戦術が課題となる．

「理論科目」11 コマ（前期 5 コマ，後期 6 コマ），演習科目前期 12 コマを開講している。

学外で行う集中授業として，ゴルフ（前期 1 コマ，後期 1 コマ），スキー（後期 1 コマ）がある。

「体育実技：身体的コミュニケーションスキル」は，1週目は授業内容説明（ガイダンス）および健康状況チェック，2週目は講義，3週目は体力測定，4週目～13週目実技，14週目講義を実施している。2週目講義では，生活習慣の改善の重要性と具体例の提示，生活習慣チェック用紙の記入方法，スポーツマンシップの説明と授業における実践について解説し，学生全員が共通認識を持って行動できるようにしている。また，メンタルヘルスパターン調査を実施し，セルフケアとして学生自身が自分の精神的状態を把握することともに，担当教員の指導上の資料としても活用している。2週目～14週は毎日の振り返りとして栄養，運動，休養，メンタル，モラルについて振り返り記録を付ける生活習慣チェックシート（毎日の記録）の毎時間提出を義務化している。レポートは，「体力測定の結果について」，「スポーツマンシップと生活習慣の改善についてのまとめ」の2回の提出となる。

学外集中授業は，生涯スポーツとしてもゴルフ（前後期）とスキー（後期）を実施しており，共同生活における協調性，コミュニケーション能力の向上，理想的な生活習慣の実践を目的としている。

理論科目は，「健康科学論A」，「健康科学論B」，「スポーツ健康学」，「スポーツ生理学」，「スポーツ社会学」，「身体運動のバイオメカニクス」の7科目で構成される。

演習科目は，「ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション」1科目で，初年次教育として1年生の前期に開講している。講義は6週実施し，グループワーク（GW）による友達作り，一人暮らしを始める学生を始め，大学生として健康面，生活面，心理面，身体面における自己管理能力を向上させるための知識と生活習慣の改善の基礎知識としての内容を講義している。実技は体力測定を1週，スポーツコミュニケーションとして，フラッグフットボール，サッカーを7週実施。授業外学習として各チームで戦略を立て，その報告をレポート提出させている。その練習成果を授業内でゲームを実施し，検証している。

《点検・評価》

学習目標とカリキュラムの整合性は，人間教育となるスポーツマンシップ教育と生活習慣教育を取り入れていることで，明らかに学生からの質問，確認，報告等のコミュニケーションが増えている。また，授業外で他学科の学生との交流も確実に増えていることから，学修目標とカリキュラムの整合性は取れていると考えられる。

《将来に向けた発展方策》

初年次教育としての「ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション」の内容のさらなる充実化を図る。キャリア教育に即した内容の授業の設定を検討する必要がある。

《根拠資料》

- ・ 学修の手引 工学部2018
- ・ 身体的コミュニケーションスキル・体育実技履修の手引き2018
- ・ 2018年度芝浦工業大学体育教員ハンドブック
- ・ 平成24年度大学体育FD推進校自己点検・評価報告書

3-2 授業科目と担当教員の整合性

《現状説明》

理論科目については、本学の専任教員、他大学の専任教員もしくは元専任教員（医学部を含む）が「健康科学論A,B」,「身体運動のバイオメカクス」,「スポーツ社会学」,「スポーツ健康学」,「スポーツ生理学」を担当しており学生の評価も高い。

演習科目である「ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション」は、心身の自己管理能力の向上とコミュニケーションを円滑に行える能力を向上させる科目であり、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの資格を有する者を含む専任教員が主に担当している。

実技種目14種目のうちフラッグフットボール、軟式野球、バレーボール、バトミントン、バスケットボール、テニス、サッカー、フットサル、ウェルネススポーツ、フィットネスの10種目は、その種目を専門としている専任教員及び非常勤講師が担当している。卓球、ソフトボールの2種目は、10年以上の大学授業において指導経験のある専任教員及び非常勤講師が担当している。スキー実習は、SAJ公認スキー指導員の資格を持つ非常勤講師が担当し、ゴルフ授業・実習は、日本プロゴルフ協会のティーチングプロB級の資格を持つ非常勤講師、JSCGT公認指導者（ゴルフ）取得の専任教員が担当しており、特別講師としてLPGAプロゴルファーも参加している。

《点検・評価》

理論科目は、各分野の専門教員が担当していること、演習科目も専任が主に担当していること、実技科目は十分な指導経験もしくは専門の指導資格を持つ専任教員、非常勤講師が担当していること、学生からの評価が高いことから授業科目と担当教員の整合性は取れていると考えられる。

《将来に向けた発展方策》

実技種目では、生活習慣教育として本学独自の指導法を展開しているが、完成度の高い教育システムを確立できる様に、非常勤講師との意見調整や研修会を実施していく。

《根拠資料》

- ・ 学修の手引 工学部2018
- ・ 授業アンケート2018
- ・ 体育・健康科目アンケート2018
- ・ 2018年度芝浦工業大学体育教員ハンドブック
- ・ 平成24年度大学体育FD推進校自己点検・評価報告書

3-3 シラバスに基づく授業の実施

《現状説明》

実技授業は、1週目ガイダンス、2週目講義、3週目文部科学省の新体力テスト、4週目～13週実技、14週目講義となっており、教室の確保、体育施設の確保、3週目は複数クラス合同で実施していることからシラバス通りの進行が保障されている。また、専任教員は非常勤講師との連絡を曜日担当制にしておき、メールや授業終了後の打ち合わせにおいて、授業の進行状況、事故、要望などの報告を受けている。

理論授業については、各担当者がシラバスに沿って実施している。授業の進行状況により若干の変更がある程度であると把握しているが、実技授業と比較してチェックシステムは確立されていない。

学生の授業アンケートにおいては、シラバスに関する設問では平均的な評価を受けている。

《点検・評価》

実技授業については、専任教員および非常勤講師担当授業において、シラバスに基づく授業の実施については保障されている。また、非常勤講師とのコミュニケーションは十分に取れており、専任教員の曜日担当制は機能していると評価できる。理論科目については、シラバスに基づく授業の実施は全教員の実施状況のチェックシステムはないため、学生による授業アンケートのみのチェックとなる。

《将来に向けた発展方策》

実技授業は、評価基準が統一されより適正な評価を実現するために、ルーブリックの活用を検討し、評価体制を確立すべきと考えている。理論授業は、シラバスに基づく授業の実施については専門の担当者に任せるところが多く、明確なチェックは実施されていない。今後、シラバスに沿った授業の実施状況などをチェックするシステムを確立していきたい。

《根拠資料》

- ・ 学修の手引き 工学部 2018
- ・ 大学ホームページ>キャンパスライフ>シラバス検索>2018>工学部>共通健康
(<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2018/MatrixA00164.html>)
- ・ 大学ホームページ>キャンパスライフ>シラバス検索>2018>システム理工学部>外国語を除いた総合科目 (<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2018/Matrix900311.html>)
- ・ 大学ホームページ>キャンパスライフ>シラバス検索>2018>デザイン工学部>外国語を除いた共通教養科目 (<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2018/MatrixY00411.html>)

3-4 卒業研究の指導状況

《現状説明》

現在は行っていない。

《点検・評価》

なし

《将来に向けた発展方策》

各学科への分属になり次第、受け入れを開始する。

《根拠資料》

なし

3-5 具体的な取組内容と成果 (FD/授業改善)

《現状説明》

体育・健康科目では、従来の実技種目は身体的コミュニケーションスキルとしてチームスポーツによるコミュニケーションスキルの向上を狙いとし、体力の維持・増進を目的とした運動量とスキルを

追求してきた。

2008年からスポーツマンシップ教育として、Good sports, Respect, Fair play, Good loser, Loyalty, Smile, Challenge, Good habitをキーワードとして設定し、2017年から、Good sports, Respect, Fair play, Good loser, Loyalty, Challenge, Good habitの7つのキーワード、+1としてsmile & greetingとした。

スポーツマンシップとは、「相手を尊重(respect)し、ルール(規則)と審判に従う。フェアプレー(fair play)に徹し、卑怯な方法で相手より優位に立とうとせず、負けた時は勝敗を受容しうなだれ落胆せず、共に喜び、胸を張って次に備えることができるgood loserであること。また、loyaltyを持ち、チームへの愛情を持ちチームの一員として協調し助け合いフォアザチームの考えができ、いつも笑顔で挑戦していく心構え」と本学独自の定義づけをし、スポーツマンシップの実践こそがgood sports(信頼できる人)に繋がるとした。

スポーツマンシップは芝浦工業大学の学生が取るべき最も基本的な態度を促す精神的な理念であり、人間形成の土台となる基礎を築く重要な要素を持っているとして指導している。スポーツマンシップ教育実施にあたっては、講師連絡会議の場で今後の方向性について毎年意見交換を行っている。

また、スポーツマンシップ教育を行う際に精神的な要素も扱うため、メンタルヘルスパターン調査を授業時の2週目と14週目に実施し、セルフケアの一環として学生自身に把握させている。また、教員の指導上の資料として使うことに同意した学生は、実技時の個人カードに記録するようにしている。

2010年から生活習慣教育として、本学独自の教育システムを展開している。生活習慣教育とは、一般的な生活習慣では、起床と就寝などの休養、朝食などの食習慣、適度な運動の実践として運動習慣が挙げられる。本学体育・健康科目では、一般的な生活習慣に加え他者への貢献、生活上の心構えとしてスポーツマンシップの実践、つまりモラルの向上も生活習慣としてとらえている。

また、授業の1週目に安全な身体活動を実践のため、「健康状況チェックシート」を提出させ、既往歴の確認、心配事などのリスク管理を行っており、気になる学生がいた場合は個別に対応する他、学生の同意を得て健康相談室に相談するなどしている。

非常勤講師には、各種目の授業において専門種目の技術より優先して礼節、マナー、エチケットなどを重視した指導に留意するよう求めていることから、授業外においても品位ある服装・行動を励行している。

基本的に、4限終了後専任教員と非常勤講師の面談を行い、授業の進行状況、学生の履修状況、用具の不足、設備の不具合、傷害発生状況など連絡を取って把握し、対応している。また、メーリングリストを作成し、メールを通じて随時授業の進行、変更点など連絡を取っている。連絡責任については専任教員による曜日担当制をとっている。

《点検・評価》

スポーツマンシップ教育は2008年度から実施し、実技・講義共に遅刻、欠席時の対処、トイレなど退室時にコミュニケーションを取ることができるようになってきている。その結果学生は、授業の中断になるとして怠っていた報告(遅刻、トイレ時)をすることが習慣化してきている。(教員とのコミュニケーションを取る様になっている。)また、相手が変わっても自分らしさを変えないで表現すること、ペアを組む時に相手を選ばないこと、自己紹介と挨拶が習慣化してきていること等が挙げられる。また不可抗力でミスをした場合の取るべき態度を考え実践するようになってきている。しかしながら、

一部の学生は頭では解っていても行動に移せない学生も少なくない。

メンタルヘルスパターンの調査資料は、実技科目においては授業態度などの指導の際に、メンタルに問題を抱える学生には慎重に対応する必要があるため、有効に利用されている。加えて、安全な身体活動の実践のために「健康状況チェックシート」を導入し、防げる事故は未然に防ぐという体制を取っている点は評価できる。

なお、2012年度、教育内容の妥当性について外部評価を得るため、(公社)大学体育連合(全国327会員校)に自己点検評価報告書の提出を行い、その結果、「大学体育FD推進校」として表彰を受けている。

《将来に向けた発展方策》

生活習慣教育は2010年度に始めたばかりであり、問題点は多々上がってきている。学生が記録する毎日の生活習慣記録表の項目、記録方法の再検討が必要である。この点については学術情報センターに協力を仰ぎながら改訂を進めたいと考えている。また、体力測定データについても2015年度からデータの取り扱い方法を変更したため、どのように蓄積し、還元していくかを検討する必要がある。

教員間の連携については、体育・健康科目会議および非常勤講師のメーリングリストによる意見交換を活発に行い問題点、改善点の洗い出しと、修正・改善に努め、各学生により理想的な生活習慣の定着が実現する方法を確立していきたい。

《根拠資料》

- ・ 2018年度芝浦工業大学体育教員ハンドブック
- ・ 身体的コミュニケーションスキル・体育実技履修の手引き 2018
- ・ 平成24年度大学体育FD推進校自己点検・評価報告書
- ・ 健康状況チェックシート

3-6 学生支援

《現状説明》

体育教員は体育会所属団体の顧問2名が貢献している。本学の顧問制度の基本的な思想は、学生自治による活動としてとらえているが、大学が人間教育の機会として期待する活動であるため、大学は各団体が理想的な学生自治のもと活動ができるように指導する必要がある。したがって、体育会活動には特にリスク管理が重要であることから体育教員が深く関わるのが必須と考えている。

体育会系団体への支援は、ゴルフ部、ハンドボール部、ソフトボールサークル、フィギュアスケートサークルの顧問として体育教員が部の運営に関わっている。課外活動においては、積極的に取り組み、環境の改善、学生の意識改革を行い、本来の学生スポーツ像を解説し、各部活動のあり方についてアドバイスし、アメリカンフットボール部の学連登録(2008年)、ゴルフ部の学連登録(2010年)に貢献している。

一般学生のスポーツ活動の支援は、日曜日以外の昼休み、体育施設の空き時間については、第一体育館、第二体育館を開放しており、試験期間と土曜日以外は毎日20～30人の学生がスポーツ活動を行っている。この活動を援助するために体育館準備室を窓口として体育用具の貸し出しも行っている。また、学生はトレーニングルームの利用が可能であるが、利用条件としてはトレーニングルーム講習会の受講義務がある。トレーニング講習会は、体育教員が担当し、月1回程度の割合で講習会を開催

している。トレーニングに関するアドバイスも併せて行っている。体育授業で使う施設は勿論、使わない体育施設（課外活動が使う）の整備を積極的に行い課外活動の環境を整備している。

また、要望に応じて担任業務を行っており、学生の要望に応じた積極的な学生支援に参加している。

《点検・評価》

施設の改善、有効活用については授業および課外活動において評価できる。課外活動の顧問をしているが、体育会については個別に相談に乗れる体制を作る必要もあると考える。しかしながら2団体に学連登録させ、自分達なりの活動ではなくカレッジスポーツとして公の場で活動できる環境を整えたことは評価できる。

現状としては、体育・健康科目として学生支援に対する最終目標とするビジョンがないため、早急に設定し、組織的に取り組む必要がある。

《将来に向けた発展方策》

体育会活動を、体育授業の補完する存在として、体育会活動の健全化（理想的なスポーツ活動）を図り、体育会参加学生を増やすことは重要であると考えている。

今後、学生支援に対して体育・健康科目として何ができるか、関係部署とも連携を取ってマスタープランを作成し、組織的に取り組んでいく。

《根拠資料》

- ・ クラブインフォメーション 2018
- ・ 芝浦工業大学学生団体の顧問等に関する規定
- ・ 平成 24 年度大学体育 FD 推進校自己点検・評価報告書

3-7. グローバル化の推進

《現状説明》

専任教員 1 名、非常勤講師 2 名は、留学経験も長く、英語での授業の対応は可能である。

《点検・評価》

英語だけによる授業の設置は行われていないが、要請があれば開講可能である。

《将来に向けた発展方策》

授業テキスト等日本語の資料しか用意できていない為、英文のテキストの作成を始める。

《証拠資料》

- ・ 芝浦工業大学ホームページ (<http://kyoinprofile.sic.shibaura-it.ac.jp>)
- ・ 非常勤講師業績報告書2018

3-8. 教育の質保証と IR 体制

《現状説明》

- a. メンタルヘルスパターン (MHP) の調査 : 2・14 週目に実施

b. 生活習慣チェックシート : 毎日の記録を毎週提出

専任教員と非常勤講師で意見交換を積極的に行っており、しかしながら、上記情報の整理し、傾向を確認して改善に役立てている。

《点検・評価》

PDCA サイクルのうち、授業内での学生からの情報をチェックしているが、その評価とその評価からの改善が徐々にではあるが成されてきている。

《将来に向けた発展策》

以前行っていた、科目独自のアンケート調査を再開し、さらに学生の状況を把握し、問題点の明確化を進める、

《証拠資料》

- ・ メンタルヘルスパターンテスト用紙

3-9. 教育・研究力の向上

《現状説明》

社会のニーズから大学教育の中で体育・健康科目が果たすべき役割を認識し、その目的を達成するための方策を試行錯誤している。

研究面は、学位取得のための研究と専門学科の先生との共同研究を進めている。教員 1 名は機械工学科および情報工学科の教員と共同研究を行っており、国内外学会で発表を行っており、3 回の学会賞を獲得するなど非常に高い評価を受ける研究となっている。また、教員 1 名は学部団体からの助成金を獲得しており、さらに、機械工学科教員、数学科目教員とで科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）に応募し、2 カ年の助成を受けた。

学内においても、FSDS 助成金を獲得し、体育教員が協力して地域の高齢者を対象とした地域貢献研究を開始しており、運動教室の開催や、体力測定等を大宮キャンパスにて行っている。

《点検・評価》

体育・健康科目では、教育面での取り組みは様々な形でチャレンジしているが、まだまだ確立されていないことが多い。研究面において、卒研究生の受け入れも考慮し、専門との関わりを増やす必要がある。

地域貢献を念頭に置いた研究は文部科学省からも求められている事項であり、高く評価できる。

《将来に向けての発展策》

スポーツ工学分野の強化が望まれる。スポーツ生理に関わる測定機器やスポーツ施設、用具の開発などスポーツと工学を結びつけるために専門科目の教員とのジョイントが今後重要であると考えられる。また、上記分野に加え、地域貢献研究を推進するためには研究施設、設備が不十分であり、今後、継続的な研究費の獲得と施設、設備の整備を計画していきたい。

《根拠資料》

平成 24 年度大学体育 FD 推進校自己点検・評価報告書